

次期総合計画 基本構想（事務局案）に対する
これまでの意見（概要）

2018年12月10日（月）

第9回総合計画審議会資料

【全体構成】

基本構想の体系に対する意見のほか、全般的に簡潔な表現、内容の充実等を求める意見をいただいた

- 政策の体系とは、政策と施策、事務事業が目的・手段の関係で明確に整理されているものをいう。資料2の下段に政策・施策が混在した分野が羅列されているが、ここが本来の政策である。では、上部の基本政策は、基本目標とするのが正しいのではないか。
- 政策というからには、市民が一目で見てわかるよう整理すべき。例えば、「誰もが」は、言う必要はあるのか、など。
- 各政策に主語がなく、誰が行うのかわからない。
- 全ての基本政策において、課題提起と対応方策の構成となっているが、現状取り組んでいることが羅列されているように見え、内容が乏しいと感じる。取組の内容を充実していただきたい。

【将来像】

現基本構想の基本理念と都市像を統合したことに対する意見や、相模原らしさを求める意見、まちづくりの考え方の転換を記載すべき等という意見をいただいた

- 都市像を将来像としてよいのか。将来の都市の在り方に焦点を合わせて具体的なイメージを持たせていこうと思うと都市像の方が相応しいと考える。
- これまで「安全に安心して自転車を利用しようよ条例」を制定したこともある。市民に分かっていただくという意味でこのような言葉にした例もあることから、将来像・まちという言葉は賛成である。
- 将来像は、基本理念と都市像を統合したものの説明であるが、どこが都市像でどこが基本理念であるかはっきり分らない。
- 相模原らしさを表していただきたい。
- 今後は、明らかにまちづくりの考え方を転換しなければいけない時点にきているが、時代の潮流を踏まえたまちづくりの展望やそれに対する市の主体的政策が浮かんでこない。

【実現に向けた基本姿勢】

分かりやすい表現への見直しや、指定都市としての姿勢を記載すべきという意見、内容の充実を求める意見をいただいた

- (1) 「協力して市民に参画できるよう」とあるが、「パートナーシップでまちづくりを進める」など盛り込んでいただきたい。また、「様々な主体」とあるが、「様々なまちの担い手」や「多様な市民」と言い換えた方が分かりやすいのではないかと。
- (2) 満足度を高めるまちづくりが「財政基盤の強化」から始まるが、「財政規律の確保」も盛り込んでいただきたい。また、「成果重視の行政の推進」という言葉が見られない。「地方分権改革に的確に対応する」とあるが、指定都市であれば、分権改革をリーダーとして進めるという決意が必要である。
- (3) 「次代につなぐまちづくり」は、「あらゆる分野にわたって持続可能なまちづくりを進めます」とあるが、何を持続可能とするのか具体的に書き込んでいただきたい。

【目指すまちの姿 基本政策(1)(2)】

基本政策(1)

若者施策の展開を意識した記載の必要性や、子どもの人権、企業の働き方の改善の視点を盛り込むべきという意見をいただいた

- 対象が子どもとなっているが、もう少し範囲を広げ、30歳代程度までを対象とした若者に対する施策展開ができるよう、記載を明確にしたほうがよい。
- 子どもの人権を守ることが重要。具体的に記載してもらいたい。
- 少子化の要因として、子育て世代の家庭の状況や長時間労働の問題があり、豊かに子育てを楽しめる環境の確保に向け、「企業の働き方の改善」の視点について盛り込めないか。

基本政策(2)

学力の保障に係る記載の必要性や、生涯学習に対する地域資源の活用、学校教育の内容、人材育成に係る記載の必要性の意見をいただいた

- 学力の保障は重要な課題であるため、記載してもらいたい。
- 「多様な学習ニーズへの対応が求められる」とあるが、今後は大学にある施設や図書館などの資源を活用した取組が想定されるので、主体を記載してもらいたい。
- 現基本構想で表現のあった「教育内容の充実」や「教職員の人材育成」など、学校教育の充実に関する表現が乏しい。

【目指すまちの姿 基本政策(3)～(5)】

目指すまちの姿

医療、介護ニーズへの対応の記載や、適切な表現の検討等の意見をいただいた

- 後期高齢者が急激に増加してくることから、医療・介護ニーズが膨大になってくる。高齢化の問題や財政需要、人材確保などの課題認識を盛り込んでいただきたい。
- 人権施策推進指針を改定するなど、取組を重要視している点から「人権」という表現を用いたほうがよい。また、外国人市民の社会参加や多文化共生も含まれていることから、対象に「国籍」を加えるべきではないか。

基本政策(3)

高齢者、障害者の活躍促進に対する意見や、統合した基本政策に対する意見、将来を見通した方策の検討の必要性について意見をいただいた

- まちづくりの主体として高齢者や障害者も活躍してもらいたいと考えており、支えられる側、支える側の両面があるということが分かるような記載を検討してもらいたい。
- 現基本構想は障害者と高齢者は別の「政策の基本方向」であったが、原案では一つになっている。インクルーシブな考えは理解するが、個々の内容が薄くならないよう検討いただきたい。
- 今後、高齢化が一層進行する中、担い手となる高齢者が支えきれない状況になるのではないかと危惧する。その点を見通して検討したほうがよいのではないか。

【目指すまちの姿

基本政策(3)~(5)】

基本政策(4)

自殺対策に係る適切な表現の検討について意見をいただいた

- 「誰も自ら尊い命を絶つことのない社会」とあるが、本市がそうしたことが多いと誤解される印象がある。「誰もが健康で楽しく幸せに自分の命を全うできる社会」というような表現はどうか。

基本政策(5)

女性活躍の促進に対する意見や、世界平和に対する適切な表現の検討について意見をいただいた

- これからは女性の活躍なくして良い社会はないと考える。より一層、女性の活躍が促進されるような表現がないか検討してもらいたい。
- 「平和意識の普及啓発に取り組みます」とあるが、現基本構想では、「世界平和に貢献する都市を実現します」と明確に表現しており、後退している印象がある。昨今の取組も踏まえ、表現を検討していただきたい。

【目指すまちの姿

基本政策(6)~(8)】

目指すまちの姿

適切な表現の検討について意見をいただいた

- 「暮らしやすい住環境と魅力ある景観を形成」とあるが、なぜ形成する必要があるのかが表現されていない。

基本政策(6)

コンパクトシティプラスネットワークを想定した表現の検討や、山林等の適切な保全、災害時の支援の記載の必要性について意見をいただいた

- 豪雨による浸水区域への対応を考えると、コンパクトシティプラスネットワークの考え方を踏まえ、そうした地域からの移転も必要になってくる可能性がある。具体的な表現は難しいが、そうしたことも想定でき得るような表現が必要ではないか。
- 「市民・地域・行政が一体となった」とあるが、本市は支援される立場だけでなく、近隣都市や九都県市、銀河連邦の友好都市などを支援する立場でもあることから、その姿勢を明確に表現したほうがよい。

【目指すまちの姿

基本政策(6)~(8)】

基本政策(7)

適切な表現の検討について意見をいただいた

- 「事件、事故」とあるが、どのような事件、事故を指しているのかわからないため検討いただきたい。

基本政策(8)

空家や立地適正化計画の考え方を踏まえた表現の検討や、分かりやすい表現方法について意見をいただいた

- 空家の増加への対応が記載されていない。また、立地適正化計画の考え方も表現がない。居住や都市機能を誘導する取組は時間がかかるものと理解しているが、何かそうした方向性が表現できないか検討いただきたい。
- 統計的にある程度予測ができる事項は、「~が見込まれています」という表現を用いて、その方策を表現したほうが分かりやすいのではないか。住宅の供給量などは推計が示されている。

【目指すまちの姿 基本政策(9)～(12)】

目指すまちの姿

適切な表現への見直しについて意見をいただいた

- 「国内外から多くの人を呼び込み」を「多くの人や企業を呼び込み」としたほうがよいのではないか。

基本政策(9)

分かりやすい表現への見直しについて意見をいただいた

- 対応の方策について、主語を明確にしてもらいたい。
- 「まち全体の構造を長期的に見通しながら、社会情勢などの変化に適応できるまちづくりを進めます」は分かりにくいいため、表現を検討いただきたい。

【目指すまちの姿 基本政策(9)～(12)】

基本政策(10)

適切な表現への見直しや、第2次産業のサービス化、強みを生かした表現の検討について意見をいただいた

- 「地域経済の活性化に資する環境の整備」とあるが、環境整備の前に「産業の創出」を入れたほうがよいのではないか。
- 「ロボットや新たな情報通信技術の活用」とあるが、ロボットもAIやIoTを活用しなければ付加価値が出てこないため、AI、IoTを表現していただきたい。
- ある調査では指定都市の中で開業率が4位の強みがある。そうした強みを伸ばせるよう、例えば「日本一起業しやすいまち」などのイメージが出せないか。現在は、資本金が少なくても起業できる。特に女性の起業が促進できるようなまちになると良いと考えているため、検討いただきたい。

基本政策(11)

昨今の状況変化を踏まえた表現の検討について、意見をいただいた

- 米陸軍部隊司令部が相模総合補給廠に駐留されたところであり、基地強化につながるような状況の変化は表現したほうがよいのではないか。

【目指すまちの姿 基本政策(9)～(12)】

基本政策(12)

分かりやすい表現への見直しや、観光資源としての文化の活用、「文化財」を生かす表現の見直し等について、意見をいただいた

- 「地域の伝統文化の振興や国内外の多様な文化に触れることのできる機会」とあるが、どのように触れる機会なのか、もう少し分かりやすくしていただきたい。
- 文化はこれまでと同様のニュアンスしか感じられない。国においても、文化を観光資源として捉え、「稼ぐ」取組が進められており、そうした視点での表現が必要ではないか。
- 現総合計画においては、文化とスポーツは教育と同じ分野であったが、原案では、経済の分野に入っている。産業や経済振興には結びつかない文化振興やスポーツ振興もあり、それがどこで表現されるのか懸念がある。
- 基本構想であるため、ここでは文化産業、スポーツ産業は触れず、基本計画の中で、これまでの文化振興、スポーツ振興に加えて、そのような方向を表現していくことも考えられるのではないか。

【目指すまちの姿 基本政策(13)~(15)】

目指すまちの姿

適切な表現への見直しについて意見をいただいた

- 「多様な主体の参加と協働や、連携と協働」が多用されているが、全てにおいて必要か、検討いただきたい。
- 「複雑・多様化する環境問題に対して」は、「深刻化する環境問題」としたほうが時勢を表している。また、「低炭素型社会」は「低炭素社会」でよいのではないか。
- 各基本政策について、地球規模で取り組む課題と、豊かな自然や都市部のみどりの保全などの市で取り組む課題が、目指すまちの姿にどのように関係してくるのかが分かりにくい。

基本政策(13)

分かりやすい表現への見直しについて意見をいただいた

- 「環境負荷の少ないライフスタイルの実現」とあるが、市民が分かるか懸念がある。再生可能エネルギーの利用や、自動車に依存しない徒歩や自転車での移動など、説明を加えたほうがよいのではないか。
- 「環境負荷の少ないライフスタイル」でおおむね想像がつくと考える。説明文が増えると全体のボリュームが増え、市民は読む気がなくなるため、簡潔でよいと考える。

【目指すまちの姿 基本政策(13)~(15)】

基本政策(14)

適切な表現への見直しや、(14)(15)の分かりやすい書き表し方について意見をいただいた

- 基本政策の(14)と(15)の違いが分かりにくい。
- 基本政策(14)(15)について、中山間地域などの手つかずの自然を守るということと、都市部において失われつつある「みどり」を守るという視点があると理解するが、対応の方策が異なるため、もう少し分かるように記載するほうがよいのではないか。

基本政策(15)

分かりやすい表現への見直しについて意見をいただいた

- 外に出ても木々や山も見えない都市部で生活している市民にとって、「自然を身近に感じられる生活環境」をどのように創っていくのかが分かりにくい。都市部での緑化やみどりの創出をどのようにしていくのか、もう少し分かるように表現していただきたい。
- 市街地の緑地や公園に目配りした内容となるよう検討いただきたい。

【目指すまちの姿 基本政策(16)~(17)】

目指すまちの姿

様々な主体が強みを生かしてまちづくりを進めるという視点や、行政（区役所）の役割についての意見をいただいた

- 「まち」は誰がつくっているのか。市民も地域も学校も行政もあるが、様々な主体がそれぞれの強みや得意分野を生かしてまちづくりをしていくことが重要と考える。また、まちづくりを進める上では市・区役所の力、サポートがないとできないと考える。

基本政策(16)

適切な表現への見直しや、行政（区役所）の役割、まちづくり会議の位置づけ等について意見をいただいた

- 「地域コミュニティの希薄化」とあるが、希薄化するのは市民のコミュニティ意識や近隣とのつながりである。
- 「コミュニティをつくります」は誰がつくるのか。原案では、行政が主導するような印象である。行政は、様々な主体が活動しやすいよう、また、その基盤をどのように作っていけるのかなどをサポートする側であると考え。行政の役割を明確に表現したほうがよいのではないか。
- まちづくり会議は、区制の施行に合わせて設置され、地域を良くするための取組を横断的に検討し実施しているため、「まちづくり会議」を基本構想の中で大事に扱っていただきたい。

【目指すまちの姿 基本政策(16)~(17)】

基本政策(17)

分かりやすい表現への見直しや、文章のつながり、整合に対する意見をいただいた

- 先を見据えた中では、「学校の統廃合」の議論が必要となってくるが、市民から見ると、学校は公共施設という概念とは別で捉えているのではないか。分かりやすい計画となるよう、「学校」は文言として表現しておいたほうがよい。
- 「持続可能な行財政運営」とあるが、どのような持続可能性なのか分からない。本文中には改革のツールが表現されているが、それらに取り組むとどのような面で持続可能な行財政運営となるのか検討いただきたい。
- 「財政状況は今後一層厳しくなる」と「市政の透明性を高める」とのつながりに違和感がある。現基本構想では、「積極的な情報公開」が本案に表現されていると考えるが、時勢に応じた取組にフォーカスしたことで、これまでの取組の継続性に疑義が生じているのではないかと考えられるので、分かりやすく改善するよう検討いただきたい。